

奥大日岳・剣沢・タンボ沢

～ 快晴の山スキー 3 日間～

酒井 利直

ゴールデンウィーク前半で今シーズン最後の山スキーに立山に出かけた。入山前日まで荒天で新雪が 3, 40cm 積もっていたが、入山中は好天気恵まれた。快適なダウンヒルと剣の威容を堪能した 3 日間であった。というが良いこと尽くめのようなのだが、今回一つ大きなチョンボがあった。それは本文を読んでいただくとして。さてパートナーは例により会社の同僚宮本君である。今回はある理由から宮本君にも一部執筆をお願いした。

4 月 29 日 (木) 快晴

午前 5 時宮本君の車で酒井宅を出発。昨年のゴールデンウィークは後半(5 月 3 日から)会津駒ヶ岳に出かけたが、往復とも車の大渋滞に巻き込まれた苦い経験がある。今年はゴールデンウィークの前半を使うことにしたがこれが大正解。関越自動車道から長野自動車道に入り、麻績 I.C. から扇沢に向かうが道はまったく空いている。扇沢手前で数匹の猿を見かけたので「今年の GW は猿ばかりか？」などと軽口を叩きながら残雪の中扇沢駐車場に向かう。午前 8 時半過ぎには扇沢の駐車場に到着。9 時のトロリーバスで黒部湖に向かう。トロリーバスは立山の雪景色を楽しもうという団体客で満員だ。スキーを担いだ連中はほんの少数であり、大きな荷物を抱え肩身の狭い思いでケーブル、ロープウェイまたトロリーと乗り継いでいく。今回のメインイベントとするタンボ沢はケーブルの真下に見えるがスキーの跡はない。痛いほど蒼い空と白い雪を見ているとチャレンジ心が高まってくる。



午前 11 時過ぎには雷鳥沢ヒュッテに到着。小屋で持参のコンビニ弁当を食べ、午後 0 時奥大日岳(2,605m)へ向けて出発。シールを着けてほぼ夏道どおり(無論道などまったく出ていないが)のトレースを追い室堂乗越のやや東に出る。午後 1 時室堂乗越着。

室堂乗越から立山川のきれいな斜面が北側に広がっている（写真が立山川）。この谷も山スキーの格好の対象である。

奥大日岳に向かう尾根はいつの間にか先行者のトレースがなくなり、所によっては 30CM 位もぐるところが出てくる。奥大日の手前のピーク（2511m）の登りは傾斜がきつい上雪の状態があまり良くない（ザラメでシールが流れるところあり）が、シールで上りきってしまう。先頭の酒井は歩き易さを求めて立山川（北側）に張り出した雪庇寄りを歩くが宮本君から時々「雪庇に寄り過ぎてますよ」と声がかかる。雪庇から離れると雪が深くて歩きにくいので悩ましいところだ。

（写真は室堂乗越の先から見た奥大日岳）

奥大日岳直下の斜面は南側に小さな雪崩の痕跡があるので、一部ハイマツの混じる狭い尾根沿いの急斜面をツボ足で登ることにしてスキーの利用は見合わせ 2511m ピークにスキーをデポした。午後 3 時 15 分奥大日岳最高点（2611m）到着。



写真のとおり立山連峰を中心とした雄大な景色が登頂の疲れを癒してくれる。2511mからの滑りは出だしの傾斜はきついですが、南面すなわち称名川側の斜面を滑りトラバース気味に稜線に戻る。ここまで誰とも会わなかったが、ここで単独行の女性登山者と

会う。

さて問題はその後間もなく起こった。室堂乗越に向かう小さなピークの手前でショート

スキーを引きずりながら登っている時酒井が誤ってスキー板一枚を流してしまったのだ。あっという間もない。

ショートスキーは称名川の谷底に音もなく滑りたちまち見えなくなった。谷底までは500m位ありそうだ。とても取りにいけるものではない。無論一瞬の油断をしたことは十分反省しないといけない。スキーの取り扱いは慎重でなくてはいけない。しかし人間万事塞翁が馬ということもある。ショートスキーが身代わりになってくれたのかもしれないと慰めつつ、酒井はツボ足で室堂乗越まで戻り急な斜面を雷鳥沢にトラバース気味に下る。

室堂乗越からトラバース気味にスキーで一息に下った宮本君が雷鳥沢の底に小さく見える。彼は30分程待たせただろうか？やはりスキーは早い。雷鳥沢ヒュッテに戻ったのは午後5時30分。

充実したそして反省すべき春の半日ツアーだった。

4月30日(金)晴

昨日小屋のおじさんからアルペンスキー板を借りることができたので、今日は雷鳥沢から剣沢を往復することにする。(午後スキーを返した時に聞くと料金は1,000円だった。感謝。)

7時40分雷鳥沢ヒュッテ発。別山乗越に向かう大勢の中に混じる。アイゼンを付けた中高年グループ、スノーボードを担い



だ若者、シールで登る山スキーヤー等実に多彩だ。今日は昨日より風があるので少し涼しいがそれでも雷鳥沢の登りは暑い。酒井は半袖シャツになって登っていく。(写真は朝の雷鳥沢)

9時30分別山乗越着。2時間弱の登りだった。剣岳が迎えてくれ登りの疲れも吹っ飛ばす。小休止の後剣沢小屋まで一滑りする。雪が柔らかい上剣沢の傾斜は緩いのでスキー滑降としては物足りない。10分程で剣沢小屋に着いてしまう。ここから見る剣岳は傾斜があり圧巻である。小屋の横で少し早い昼飯。ヒュッテで貰った弁当にラーメン一袋を二人で分けて食べる。10時半頃別山乗越に登り返し開始。宮本君はシールで快適に登るが、借り物のスキーでシールがない酒井は柔らかい雪に時々もぐりながら高度差約

200mを登り返す。別山乗越からハイマツとガレの露出した夏道沿いに雪のあるところまで50m程降り、午前11時40分滑降開始。滑り出し地点は雷鳥沢の左岸側だがすぐに沢芯にトラバースする。沢の中央部は新雪がやや厚くスキーの取り回しに少し苦労する。左岸側の雪の色が変わったザラメ部分がスキーを回す上では楽だ。雷鳥沢の滑降は正味30分程度である。2時間登って30分で降る世界。

12時半にはヒュッテに戻りビールをあおりながら立山連峰の雪景色を堪能する。それにしても少し戻ってくるのが早かったなと反省。剣沢をもう少し下まで滑るべきだった。あるいは真砂岳あたりから剣沢に降るチャレンジをしても良かったかもしれない。

5月1日(土)快晴

スキーのない酒井はトロリーとケーブルで黒部湖へ向かうため宮本君が一人で東一ノ越からタンボ沢コースに挑戦した。

以下は宮本君の滑降記録である。

7時に朝食。弁当を受け取り、勘定を済ませ雷鳥沢ヒュッテを7時30分に出発。雷鳥沢ヒュッテの裏の急斜面をシール登行するか、雷鳥平のキャンプ場の向こうまで標高を落とし沢筋を登っていくかの選択だが、前者を選んだ。これが失敗。このあたりは地形が複雑で何度かアップダウンを繰り返し、結局標高を落として沢筋に合流した。



沢筋をそのままシール登行していく
右上の浄土山の下には、室堂センターからの夏道のトラバース道がまっすぐ一の越に伸びている。
沢筋を登る人よりもトラバース道の方がやや多いようだ。

左の立山の上の方からはスノーボーダーが急斜面を滑り降りてくる。朝早いのでアイスパーンを削る音がガリガリと聞こえてくる。

9:25に予定どおり一の越に到着。東一の越に向かう御山谷方面を向いて20人ほどの人が休憩している。今日は

人なので落ち着こうとチョコレートを食べ、水を飲む。

東一の越へのトラバース道は 30 ~ 40 度の急斜面に切ってある。今年は雪が少ない。標高 100m ほど下降してトラバースぎみに滑って、夏道に入るようだ。しばらく見ていたが、トラバース道に入っていき人がいない。

後ろの女性は、「ええー、あんな所に入っていくの？」なんて言っている。

御山谷に入っていくグループが、何組かいる。東一の越に入っていく二人組みもいた。大丈夫そうだ。

9 :45 御山谷の滑降開始。標高 100m ほど下の這松帯まで滑る。それにしても御山谷は雄大な U 字の谷だ。斜度は 30 度以内で気持ちよく滑れそうだ。

そのまま御山谷を下りる訳にはいかない。黒部平で酒井さんが待っている。トラバースして夏道に入る。そこから雪が切れるためスキーを担ぐ。

それにしても雪があるときは 40 度程の斜面のトラバースを続けて東一の越に入るのだろうか。この斜度だと難しいと思う。

10分程あるいて無事東一の越に到着。先行の二人が休憩していた。雷鳥沢ヒュッテで一緒になった二人組みだ。

5分ほど休憩して滑降開始。標高 2450m から 1700m の黒部平までの滑降。

今回の山行のハイライトだ。上部は斜度 40 度でかなりの急斜面だ。

雄大なカールの左斜面にはデブリが 2 箇所出ている。

二日前には無かったデブリだ。



右の方が斜度がやや緩いので、そこにトラバースしてから滑ろうかと考え、滑り始めたが、雪質は良い。柔らかくて引っかかりもない。そのまま最も斜度の強いところをターン。大丈夫だ。そのままターン、ターンを繰り返す。

太ももの筋肉が痛い。途中で休憩だ。急斜面の底までは、まだ標高差200mはある。かなりの高度感だ。滑降再開。ターン、ターンと快調に飛ばす。

斜度が緩んだ。後は左斜面の二つのデブリの先端を横切って、そのまま黒部平に向かう。

黒部平で酒井さんに再会。そのまま黒部湖まで滑降する。樹林帯の中を斜面を選んで降りていく。周りは誰もいない。目標はかんばん谷橋の南側だ。間違って橋の真上の崖上に出てしまい30m登り返す。樹林帯をトラバースして隣の谷筋へ。折れ枝の散乱する谷筋を滑っていくと下の道を歩く観光客が見えた。無事到着だ。

そこから10分ほど歩いて黒部ダムへ。ダムの真中で酒井さんが待っていた。

(以上文責 宮本)

午前11時黒部ダムの上で宮本君と再会。午後0時大町温泉郷の日帰り温泉に入浴しざるそばを食べる。中央自動車道経由帰京するが渋滞に会うこともなく4時前に調布インターに到着。

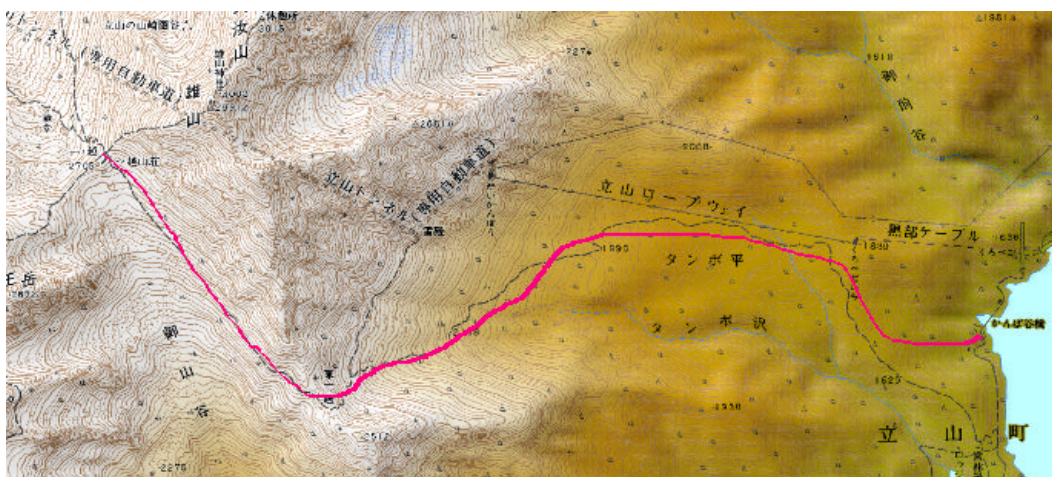
(扇沢には中央自動車道の方が関越道より早いかもしれない)

装備(登攀・滑降用)

ショートスキー・シール(利用) アイゼン(一部利用)

ピッケル・スコップ・ビーコン・ゾンテ・8mmロープ、カラビナ(利用せず)

以上



(タンボ沢滑降ルート図)